

## お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第31弾をお届けします。

(シリーズ担当：R.I.)

### 第31話 昔と今の米作り (4. 草取り・水管理・肥料・防除)

#### ④ 草取り・水管理・肥料・防除



雑草は、人の手で取ります。この草取り（除草）は、水田に這いつくばるように行う、大変辛い作業です。夏草は取っても取っても後から後から生えてきます。また、田んぼのイネに必要な水は、左図下のように桶を使って人の手で汲み上げることもあります。稲作に水管理は大変重要です。

図 31-1  
江戸時代（元禄）の苗取りと灌水



農薬（除草剤、殺菌剤、殺虫剤）を散布して、雑草、病気、害虫を防除します。また、肥料を撒いて稲が大きく丈夫に育つようにします。（昭和42年）。除草剤によって、手取り除草から解放され、大変楽になりました。

図 31-2  
昭和30～40年代の薬剤散布風景



今はあまり農薬を使わない稲の栽培方法も考えられています。その一つ「アイガモ農法」は、田んぼにアイガモを放つと、アイガモが田んぼの土をかきまぜ、雑草や虫を食べてくれるので、農薬を使わないですむのです。(平成5年 福岡県桂川町) これは、アイガモが幼鳥の時、カラスやイタチ、犬や猫など外敵から如何に守るかの課題があります。

図 31-3 現代、アイガモ利用の稲栽培

(出典) 図 30-1~3 農水省 HP 子供のための農業教室

[http://www.maff.go.jp/j/agri\\_school/a\\_kome/index.html](http://www.maff.go.jp/j/agri_school/a_kome/index.html) から引用

ここで、水稲作 10a 当たりの労働時間の推移を図 31-4 で見てみましょう。

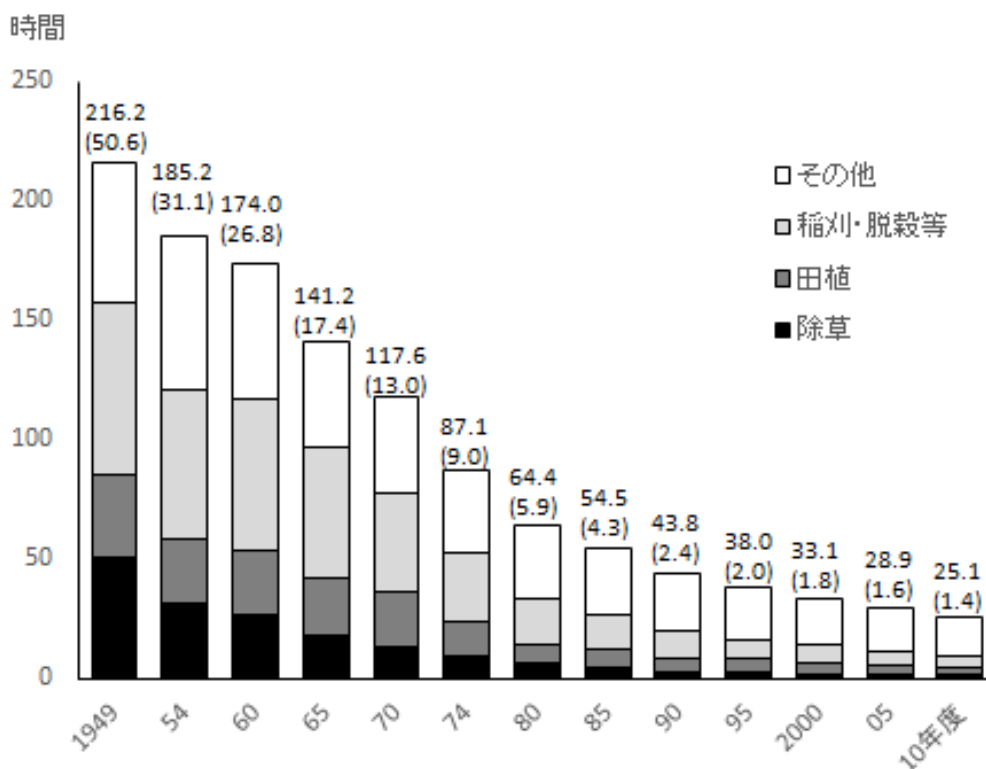


図 31-4 水稲作における主要作業時間の年次変化

注：数字は 10a 当りの総労働時間、( ) 内は除草時間。「その他」は防除、耕起、かん排水など。

(出典) 公益財団法人 日本植物調節剤研究協会編「植調五十年史」より作図

農薬工業会 [https://www.jcpa.or.jp/qa/a6\\_18.html](https://www.jcpa.or.jp/qa/a6_18.html) から引用

除草、田植え、稲刈りと脱穀など、およびその他に分けて、それぞれの所要時間を棒グラフで示しています。この図によれば、1949年に全体で216時間も掛かったものが、2010年には25時間になっており、約1/7以下（11.6%）になっています。中でも、除草時間は、1949年の50.6時間から2010年には1.4時間になっています。これは、有効な除草剤の開発によるものです。田植え、稲刈り・乾燥の労働時間も激減していますが、これらは、農業機械の開発に負うところ大です。

稲本志良\*は、「戦後の水稻生産技術の進歩を要約すれば、主要なものとして、①早期・早植栽培の発展、②除草剤による除草と病虫害防除の発展、③施肥技術と品種改良、④土地改良と土壌改良の進展、⑤機械化の進展があげられる。」としています。なるほど、戦後の日本稲作農業の発展には、ここに上げられた要因が大きく貢献したと思われます。

---

\*稲本志良（1970）戦後日本農業における技術進歩の経済分析 ―水稻生産における技術進歩の動態過程に関する計量分析― 農業計算学研究 4:73~86.

---

**発行：(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)**  
**〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目10-39 赤坂KSAビル3階**